

文化財学習会

# ふるさと探訪

テーマ 栗林公園探訪

日時 令和6年9月25日(水)

講師 藤井 雄三(元高松短期大学 秘書科 准教授)

共催 高松市文化財保護協会・高松市教育委員会

ふるさと探訪資料 【令和六年九月二十五日】

担当 栗林公園解説ボランティア 会員 藤井雄三

一 切手御門

江戸時代、栗林荘に置かれた東門の名称

※ 平家女護島より

「船路関所の通り切手」  
の切手の意味は「通行切手」  
(でも、日本が好きだ <https://tromolo.jp/ka/>)

※ 雑俳「たみの笹」

「おづおづと切手を出す芝居口」  
の切手の意味は「劇場の入場券」

※ 雑俳「誹風柳多留」川柳の句集

「切手を見せて田楽を喰ひに行き」  
の切手の意味は「通行証」

切手御門の位置。



## 二 御林守

小神野夜話

節公御代に至り、押羽右衛門・同半三郎兩人を中間頭格に被仰付、御林守申名目に成、外押は御免に成、山内羽右衛門・増田半三郎名乗、羽右衛門は代々相続、今に相勤居申候、半三郎は当代殿様御代、罪有て改易被仰付け候

## 三 会所

江戸時代、種々の目的をもって人の集会した所。株仲間の組合事務所、町役人・村役人の事務所、両替所、取引所など。

## 四 檜御殿

栗林荘における藩主が滞在する施設。



檜御殿

松岡調（まつおかみつぎ、一八三〇～一九〇四）

年々日記（明治四年三月九日／一八七二）

・・・この御荘の南の法はこのしたまいてこの辺りは皆田畑にものし給えるにつけて、御殿はさいつ頃藤岡某が・・・の俣を奉りてかの許え引かんとてかくはものしつるにんありけると涙をいしつと言えり・・・

藪

※ 築城において、城外から見え透くところを覆う、施設、（高松城跡、桜御門・北側の石塁）

北湖側 舟乗場

※ 箱松に覆われた通路の東端にみられる階段状の施設。舟の乗降場との推定



揚橋

南湖と北湖を結ぶ水路玉澗のほぼ中央に架かる橋  
橋名は、舟が通過するときに橋をあげるの意味カ

東隈

巢屋 (事例 岡山後楽園 沢の池 舟の保管施設)  
御召千秋丸 (事例 昭和十一年 昭和天皇御召艦)



南湖側 舟乗場

留春閣跡地に建つ小松亭の東方・岸边にみられる舟乗場である。数段の階段で構成され、南湖に浮かぶ舟への乗降場と考えられる。舟乗場の水面との比較。



檜御殿

松岡調（まつおかみつぎ、一八三〇～一九〇四）

年々日記（明治四年三月九日／一八七二）

・・・はるかに隔たりて留春といえる御館もありてかの掬月亭よりは百閒にも餘れるほどの廊下つゞきて、おどろおどろしきもの也・・・

おどろおどろしき廊下の位置

現在の小松亭の裏から掬月亭に向かう通路に所在した可能性



- 
- ① 常盤橋
- 
- ② 切手御門付近
- 
- ③ 現在の切手御門
- 
- ④ 御林守横から御庭会所へ
- 
- ⑤ 御林守西側通路
- 
- ⑥ 御庭会所横（東より）
- 
- ⑦ 檜御殿跡から北湖北側
- 
- ⑧ 檜御殿跡付近
- 
- ⑨ 御庭会所横（西より）
- 
- ⑩ 舟乗降場（北湖側）
- 
- ⑪ 舟乗降場（北湖側／最下段）
- 
- ⑫ 北湖
- 
- ⑬ 玉潤・揚橋北側
- 
- ⑭ 揚橋
- 
- ⑮ 東隈
- 
- ⑯ 玉潤と迎春橋
- 
- ⑰ 南湖（舟乗場付近）
- 
- ⑱ 舟乗降場（南湖側／東より）
- 
- ⑲ 舟乗降場（南湖側／西より）
- 
- ⑳ 舟乗降場付近（西より）
- 
- ㉑ 廊下跡？掬月亭方向をみるⅠ
- 
- ㉒ 廊下跡？留春閣跡方向をみる
- 
- ㉓ 廊下跡？掬月亭方向をみるⅡ
- 
- ㉔ 掬月亭台所跡付近
-